

幣原生誕150年へ有志ら映画や語り部

平和への功績広めたい



幣原喜重郎

戦争放棄を掲げた憲法9条の発案者の一人とされる大阪府門真市出身の元首相幣原喜重郎(1872〜1951年)の4年後の生誕150年を祝おうと、地元有志が準備を進め

ている。映画製作や語り部育成も始め「平和の思想を貫いた功績を広めたい」と意気込む。「地元の住民でさえ『しほら』と読めない人がいる」。門真市の税理士戸田伸夫さん(67)

は首相の出身地であることがあまり知られていないと嘆く。友人の元小学校教師酒井則行さん(72)と昨年「2022年の生誕150年に何かやろう」と盛り上がり、今年9月に実

行委員会を発足。今月、映画製作を開始した。幣原は現在の門真市一番町で生まれ、外交官として活躍。1924年以降、五つの内閣で外相を務めた。軍備拡張を進める軍部と対

立しつつも堅持した国際協調路線は「幣原外交」と呼ばれる。太平洋戦争終戦後の45年10月には首相に就任し、憲法制定に関わった。憲法9条は46年1月、幣原と連合国軍総司令部(GHQ)のマッカーサー最高司令官が会談した結果生まれたとされる。マッカーサーの回想録や幣原の側近の証言から幣原が発

案したという説がある一方、マッカーサー発案説も根強く「現憲法はGHQが押し付けた」と主張する改憲派の論拠となっている。映画では幣原とマッカーサーとのやりとりなどを再現して9条の成立過程をまとめる。戸田さんは「幣原の平和を求める思いを知ってもらい、全国に発信したい」と話している。

立しつつも堅持した国際協調路線は「幣原外交」と呼ばれる。太平洋戦争終戦後の45年10月には首相に就任し、憲法制定に関わった。

案したという説がある一方、マッカーサー発案説も根強く「現憲法はGHQが押し付けた」と主張する改憲派の論拠となっている。